

Warta DAICHI

大地のジャカルタ便り



誕生日に寄せてー父より

ハイライト:

お誕生日特大号は、まだまだ続きます。
今回は父も執筆担当があります。
さてさて、どんな休日を過ごしたのやら?

目次:

誕生日に寄せてー父より【続】	2
ごめんね後日談	2
だいじょうぶ、だいじょうぶ	2
さらなる大地ワールド	3
のぼれたよ	3
お友達を紹介します	3
マイブーム	4

最近、次のような手紙をもらいました。手紙の主は3年ほど前、ボストンで出会った日本人でした。といっても、アメリカの方と結婚され在米何十年かになる日本の女性です。父はちょうど米国留学のため、数日前にボストンに着いたばかりの頃のことでした。住むべきところを探すために毎日ボストンの街を歩き回っていたある日、一人の初老の日本人女性に声をかけられ、一緒にいたご主人と一緒にほんの短い間立ち話をしました。その日本人女性からの手紙だったのです。

手紙の内容は、この3年の間にその時お会いしたご主人が、10年間の骨髄腫との戦いの末他界したことを知らせるものでした。手紙には次のようなことが綴られていました。

『いろいろな土地の病気のことや医療の話をお聞きしたり、アメリカの医療事情等についてお話ししたりしたかったのですが、機を逸してしまいました。私も夫もそういうことに興味があったのは、実は、夫が病気だからでした。夫は10年間骨髄の癌と暮らしていました。10年間、何人もの医師や看護婦とかわり、病院を行ったり来たり、出

たり入ったりしていていますと、私のようにかなり医学に疎いものでも医大の1年生くらいの勉強をしたような気になるくらい知識が付き、また医学医療に対する疑問や、ちょっと気取った言葉ですが、いわゆるヒューマニティーというものへの思いも蓄積し、いろいろなお話をしたかったのです。

その夫もとうとう昨年11月に亡くなりました。10年間いつも前向きな姿勢をとり、最後の最後まで愚痴一つこぼしたことはありませんでした。立派だったと思います。

同封の小冊子は、夫と私で一生懸命つくり自費出版したものです。といっても店頭に出回っているわけではなく、ごく少数の方々にお送りしているだけです。夫はこの本をとっても愛し誇りにしていました。この本を気に入ってくださるような方々にお配りして夫の供養の一部にしたいと思っています。お読みいただいて少しでも気に入っていただけたらうれしいです

こちらは毎日雪が降っています。日本の冬も今年は寒いと聞きます。どうかお体をご慈愛なさって毎日をお過ごしくださいませ」(三ページ目に続



父さん、父さん

大地の誕生日から、ちょっと遅れてお祝いにきた父です。実は前回ジャカルタに来たとき、久しぶりで緊張していたのか、最初はなかなか父になじまなかった大地ですが、今回は打って変わって、「父さん、どこ?」「父さん、どうぞ」「父さん、読む」と一気に父さんっ子になりました。果てはい

つも母なら逃げ惑う食後の歯磨きも、「父さん、はみがき」とわざわざリクエストして二人で仲良く歯磨きです。あらまあ、ちょっと焼けますね。おかげで父の目は初日からたれっ放しでした。左は「これなーんだ?」「おにぎり!」「え、本当にわかってるんだ」と感激の父。

誕生日に寄せて一父より（続き）

父は短い手紙でしたがお礼の言葉と、まだそのときにはこの世に生を受けてさえいなかった君（大地）の写真を添えて返事を書きました。その最後に高村光太郎の以下の詩を添えて。

『樹下の二人』

あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川。
ここはあなたの生まれたふるさと、あの小さな白壁の点点があなたのうちの酒庫さかぐら。
それでは脚をのびのび投げ出して、このがらんと晴れ渡つた北国の木の香に満ちた空気を吸はう。
あなたそのもののやうな此のひいやりと快いすんなりと弾力ある雰囲気肌に洗

はう。
私は又あした遠く去る、あの無頼の都、混沌たる愛憎の渦の中へ。
ここはあなたの生まれたふるさと、この不思議な別箇の肉身を生んだ天地。まだ松風が吹いてみまず、もう一度この冬のはじめの物寂しいバノラマの地理を教へてください。
あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川。
（高村光太郎『千恵子抄』より）
大地よ、大きくたくましく育ってください。



ごめんね、後日談

前号で、大地が「ごめんね」といえるようになったことを報告しました。その後日段です。「ごめんね」というととてもまわりが喜びのを発見した大地。あいかわず気に入らないと、何かを投げることがあり、母におこられます。「ごめんねでしょ?」「ごめんねっ」勢いよくとりあえず言ってしまうと、全て帳消し、形勢逆転、許されたと思うのか、満面の笑顔。反省の色はすっかりどこかに飛んでいってしまいました。やっぱりそんな

に簡単にはいかないな、とちょっとため息。
それでも最近、「ごめんね」も段々いたについてきたのかもしれない。本当に謝らなければならないときには出し惜しみするのですが、何かの拍子でぶつかったときなどは、「ごめんね、そーりー」と自然と言えることもあるからです。ついでに許してしまうこちらのことは、すっかり見透かされているようですけれど。



だいじょうぶ、だいじょうぶ

豪快なところもありますが、実は大地には慎重で、またちょっと怖がりです。隣の部屋や家の外から何か物音が聞こえたりすると、「Takut(怖いね)」と声を潜めて囁きます。「怖い?」と問うと神妙な面持ちで頷き、「何かいるの?」と問うと「おばけ」と答えます。今回父が持ってきた本の一冊に、いとうひろしさんという人の書いた『だいじょうぶ、だいじょうぶ』という絵本があります。おじいさんに男の子が「だいじょうぶ、だいじょうぶ」というおまじないの言葉をも

らいながら成長していくという内容です。絵も文もほのぼのした感じの作品で、大地もほっとするのか、お気に入りの一冊となりました。今では「だいじょうぶ」という言葉は、大地にとっても大事なおまじないの言葉です。



さらなる大地語ワールド

最近の大地語から：なつかしいおしゃぶりと再会して、さっそくちゃぶちゃぶ、「大地、Baby」と自己申告。



大地との会話が俄然楽しくなってきた、今日この頃です。「これはなんといったんだっけ」と言葉が思い出せないときの真剣に、眉間に詩話を寄せきった表情は、みているこちらが笑い出さないようにこらえるのが難しいぐらいです。

写真左は、車のおもちゃにひも付きボールペンをひっかけて引っ張っているところです、「インディ」と言いながら。その心は、近所の人が大型犬「インディ」を連れてお散歩しているところと同じなのだそうです。あるいは困ったことに母の仕事机から失敬したコンピュータ用のマウスを引きずっては「インディ」と喜んでみたりもします。

また、どこで覚えたのか「びじん」という言葉も

よく使います。彼の美人の基準はよくわかりませんが、男の人でも、時々「美人」がいるようです。顔を洗って「大地、美人？」と尋ねたりもします(きれいになったという意味だと思いますが)。さらに最近は、「大地の美人、どこ？」と尋ねられて、返答に困ったりしています(答えはPlay Groupの大好きな先生のことでした)。

長らく暗号のようだった「大地語」ですが、今日ひとつ解明しました。「サバーン、エーク」という音が何を意味するのか、長らく不明でしたが、どうやら英語の「セブン、エイト」というようにです。

のぼれたよ



お庭にある木の切り株いすに、いつもなら「抱っこして乗せて」とせがむところが、この日は自分で昇りつき、座れました。さらにはそこから「Stand Up」。写真は左のページから続きます。

あれよ、あれよという間に、こんなことができるようになってたんですね。写真だけ見ると、ついこの間まで赤ちゃんだったようには見えないのではないでしょうか？



お友達を紹介します

航大くん(コーカーくん)

大地より半年ほど先に生まれた同学年のお友達です。航大君のお父さんとお母さんと、母は昔一緒に職場で働いていたのですが、偶然にも今度はお互いに子連れでジャカルタで再会したのです。

個性を大切に育もうとしているご両親の元、とても自由にたくましく育てている航大君は、大地の大好きなお友達です。二人が出会うと共鳴しあうのか、とんでもなく大騒ぎになるのが常です。スキンシップがどちらかといえば苦手な航大君

大君ですが、大地のおかげで(?)、少し慣れてきたようです。写真左は大好物の飲茶を食べに行ったときのもの、写真下はおもちゃの飛行機で盛り上がっている二人です。



今日も、明日も、元気印。

お便りお待ちしております！

誕生日特大号 第二弾

Tamanpuri Setiabudi No.19
Jl. Karbela Selatan, Setiabudi, Jakarta,
Indonesia

電話 +62(21)5211519

Fax +62(21)5277409

Email: Okeikoy@aol.com



父が休日を終えて日本に帰る日の午後、大好きな風船に囲まれてご満悦の大地。最近色合わせに夢中の大地は、自分の赤シャツと赤い風船、父の青いシャツと母の水色のワンピースと青い風船の色が「同じ」ことを発見して大感激。プレイグループで「お父さん顔」にフェイスペインティングしてもらった大地は、ちょっとカールおじさんのよう。短いながらもゆっくりと楽しい週末を家族三人で送ることができました。



マイブーム

【おもち】

おしょうゆをつけてのりを巻いたおもちが大好き。お誕生日に食べさせてもらい、すっかりはまりました。母の皿から失敬して、でも時々には母にも食べさせてくれました。

【気持ちいいよ】

プールのなかで頭を水に浮かせるのが気持ちいいのか、最近のお気に入りのポジションです。最近顔をつけるのにも少し抵抗がなくなってきたようです。

【得意のポーズ】

長いものを振り回したがる大地、結婚式でいただいた扇子を持ってポーズ（右上）。ツンツルテンのズボンを片手に「イエーイ」のポーズ【右下】。自分で「すごい」と褒めてみたり、パリエーションがあります。

